

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。新しい一年が市民の皆さまにとつて、実り多き年でありますことを、心よりお祈り申し上げます。

さて、本年は統一地方選挙の年。節目に当たり、来し方をふり返りました。

この4年間は、地域産業の躍進があり、直後に経済危機が発生するという、過去に例を見ない大きな時代の転機だったと感じます。企業は生産計画を見直し、市民は生活の見直しを迫られました。市役所へ生活相談にお越しになる人の数は、増加傾向にあります。

市民生活の支援、地域経済対策や雇用確保など、新たな対策が求められる一方、市の財政も厳しいものに転じつつあり、市政運営の難しさを痛感させられた4年間でした。

しかし、本市は「元氣な愛知」といわれた時代に、市債(借入金)を減らし、基金(貯金)を増やすことができました。また、計画していた大型の公共事業は、経済危機直前にほぼ一段落させることができたため、財政の健全性は今も維持されています。

こうした不測の時代にありながら、ごみ減量、子育て支援、医療・福祉の充実、教育環境や都市基盤の整備など、市民の皆さまの市政へのご理解とご協力により、さまざまな成果を挙げられたことに感謝申し上げます。

不透明な時代にあつて、本市の健全財政は、市民の貴重な共有財産といえます。次の世代に思いを馳せて、この貴重な財産が大切に引き継がれることを願ってやみません。

市民の皆さまのご多幸と、安城市の発展を祈念申し上げ、年頭のごあいさついたします。

安城市長 神谷 学



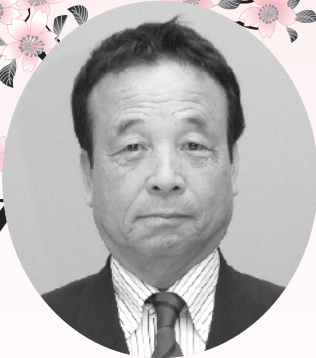
明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、すがすがしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。議会を代表いたしまして一言ごあいさつ申し上げます。

さて、日本の政治経済は、ますます混沌の時代を迎えているように感じます。政治においては、国民の期待に^{こた}えて政権交代がなされたにもかかわらず、国の運営はなかなか前進せず、足踏み状況であると思われます。われわれが期待をしている地方分権・地方主権が進まず、財政再建も先行き不透明です。経済においては、先進国であつたわが国の産業が、開発途上国にシフトされる流れが速まり、今後の日本経済は、どこに新しい場所・事業を求めていけばいいのか非常に心配です。

われわれ地方議会におきましても、議会のあり方、議員の定数、議員の報酬など、いろいろな課題を抱えているところです。このことにつきましては、市民の皆さまとともに議論をしていかなければならないと考えています。

新しい年を迎えるにあたり、新しい議会のあり方をわれわれも探求していきたいと思っています。

結びにあたり、市民の皆さまの一層のご指導・ご鞭撻^{むち}をお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝を祈念いたしまして、年頭のごあいさついたします。



安城市議会議員 細井 敏彦